

八甲田丸の1700万人

作・演出：畑澤聖悟

明治41年から昭和63年まで80年の間、津軽海峡を横断し、青森駅と函館駅と結んだ青函連絡船。メモリアルシップ八甲田丸「車両甲板」を舞台に、あの日の思い出がよみがえる！



< ご挨拶 >

「青い海函館の港明ければ」で始まる「函館ステップ」は、昭和34年、小学校6年生の函館修学旅行でバスガイドさんから教わったが今も覚えている。私にとっての青函連絡船はこの時から始まり、函館で海外旅行の気分も楽しめたのである。しかし、国が昭和55年1月に「青函トンネルを開通した際には、青函連絡船を廃止する」との方針を打ち出したことから、あこがれの海外旅行の継続は危ういものとなった。

昭和57年1月に、函館で「青函連絡船存続市民協議会」が、2月に青森で「あおり青函連絡船市民の会」が結成され、存続を目的とする市民運動が始まり、私も参加した。市民フォーラム、署名活動、海峡緑日等のイベント、夢の連絡船をテーマにした絵と作文の募集、存続させるための具体的提案、県・市議会、JR北海道への働きかけ等々の活動を両会が協力連携して展開したが、昭和63年3月13日青函連絡船の運航は廃止された。

現在公開展示されている函館市の摩周丸と青森市の八甲田丸は、そのような市民運動とは別に行政側の取り組みとして今日に至っているが、根底には、青函連絡船80年におよぶ函館、青森両市民の熱い思いと、両市の港まちの歴史の重さが流れていると思う。青函連絡船があったから、現在の青森市の街があり、函館との青函ツインシティの交流があり、北海道との交流があり、海のまち・青森市の未来を語る事ができる。ありがとう、青函連絡船。

青森市長 鹿内博

青森から函館へ、函館から青森へ。様々な物資と人とそして思いを載せて運んだ八甲田丸。その車両甲板こそ、海運の拠点として発展してきた青森市のあゆみそのものが凝縮された空間であると思います。この特別な空間を使い、青森市の人々が青森市のあゆみを描く創作劇を上演することには特別な意味があると確信しています。何を隠そう私の誕生日は八甲田丸就航の日(昭和39年8月12日)です。八甲田丸と同じ誕生日を持つ私がこの役目を仰せつかったのは偶然であるはずがありません。青森市の皆さんと八甲田丸を愛する方々の力を借りて、すばらしい物語を紡ぎ上げたいと思います。

渡辺源四郎商店店主 畑澤聖悟

日程：2012年10月7日(日)～8日(月・祝)
会場：青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 車両甲板 青森市柳川一丁目112番15地先



【観劇のお申し込み】入場無料(要事前予約)

ご希望の回(お一人さま1枚につき1回)、人数(2名様まで)、お名前、ご住所、電話番号、人数、を明記の上、往復はがきにてお申し込みください。往復はがきの返信用部分には住所、氏名をご記入ください。2012年9月1日消印有効。公演詳細が決まり次第、抽選(1ステージ約100席を予定)を行います。

送付先

〒038-0012 青森市柳川一丁目112番15地先
 八甲田丸「八甲田丸の1700万人」事務局

【お問い合わせ】 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸 017-735-8150
 青森市都市整備部交通政策課 017-761-4182

<スタッフ> 音響・音楽：盛隆 宣伝美術：工藤規雄
 ドラマタッグ・演出助手：工藤千夏 宣伝写真：山下昇平
 照明：浅沼昌弘 プロデュース：田村隆文 葵卓

■主催：NPO法人あおりみなとクラブ ■共催：青森市

■企画制作：渡辺源四郎商店、なべげんわーく合同会社

■助成：日本財団 助成事業

みなとの博物館ネットワークフォーラム

※本事業は、船舶の交付金による「日本財団」と「みなとの博物館ネットワークフォーラム」の助成金を受けて実施します。

■後援：青森県、青森県教育委員会、青森市教育委員会、青森県PTA連合会、青森市PTA連合会

■協力：昆政明、小畑智恵、青森県立青森中央高校演劇部、アクト・デバイス、昭和通り振興会、Griffe inc.、NPO法人アートコアあおり、株式会社みどりや、川柳ゼミ青い実の会

各交通機関ご利用時の目安
 <鉄道>
 JR新青森駅からお車で約20分
 JR青森駅・青い森鉄道青森駅から徒歩5分
 <お車>
 東北自動車道青森中央ICより約20分
 東北自動車道青森ICより約30分
 <飛行機>青森空港からお車で約30分

【畑澤聖悟 はたさわせいご】

劇団「渡辺源四郎商店」店主。劇作家・演出家。「俺の尻を越えていけ」で2005年日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞受賞。ラジオドラマ脚本でも文化庁芸術祭大賞など多数受賞。第12回鶴屋南北戯曲賞ノミネート作品「親の顔が見たい」は、韓国の劇団神市によりソウルで大ヒット。劇団民藝に書き下ろした「カミサマの恋」(主演：奈良岡朋子、演出：丹野郁弓)は、全国ツアー中。現役の高校教諭でもある畑澤が顧問として指導する青森県立青森中央高校演劇部は「もし高校野球のマネージャーが青森の「イタコ」を呼んだら」で、2012年夏の全国大会への出場も決定。同作品は、2011年秋より被災地応援ツアー(文科省委託事業)も行っている。

源 【渡辺源四郎商店 わたなべげんしろうしょうてん】

http://www.nabegen.com/

畑澤聖悟作品を中心に青森市のアトリエ・グリーンパークを拠点に活動する劇団。プロデュースユニットとしての活動を積み重ね、2008年に劇団としての活動を開始。第6回公演「ショウジさんの息子」がCoRich舞台芸術まつり! 2008春グランプリを受賞。高校生や中学生のための演劇WSも積極的に展開している。

○渡辺源四郎商店は、青森グリーンパークホテルのバックアップを受けて活動しています。